



自然いっぱいイベントいっぱい！
自然保護センターへ
来てみられえ！

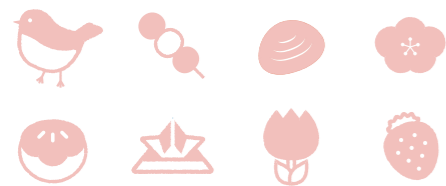
「SDGsは楽しい」という気づきが
自分から動ける人材に

NEXT STEP

有限会社 藤岡保険コンサルタント

エコアクション21

わたしたちのSDGsアクション！
環境調査部 調査課
岡山県自然保護センター



5つの間違いを見つけよう！

答えは裏表紙にあるよ



SDGs 推進に向けた
人づくり
しくみづくり

特集

SDGs 鼎談

春の観察会案内

時間 10:00~12:00 (9:50集合)

集合場所 センター棟他

参加方法 要予約 / どなたでも参加OK

季節のさまざまな生きものを観察する、「自然観察会」を開催！

4/23



とんぼの羽化を観察しよう！

オグマサナエ、フタスジサナエなど、この時期に羽化する「とんぼ」の感動的な瞬間を観察しましょう！

5/21



初夏のとんぼ観察

暖かくなって、池や原っぱでは「とんぼ」の仲間が次々増えてくる季節です。何種見つけることができるかな？

5/28



チョウ博士になろう！
～春を彩る蝶々を探せ！～

春に見られるチョウはどんな種類がいるんだろう？寒い季節を乗り越えた猛者や羽化した美しいチョウを見つけよう！

6/4



ササユリの咲くところ どんどこ

センターではササユリの生育環境を保全しています。清楚なササユリの花を観察しながら、どのようなところに生えているのか調べてみましょう！

集合場所 郷の茶屋付近

6/11



日本一小さなとんぼ
ハッチョウトンボ

国内最小の「とんぼ」を見つけるのは至難の業。目を皿のようにして探してみましょう！運が良ければ産卵の様子も見られるかもしれません。

自然いっぱい！イベントいっぱい！

自然保護センターへ 来てみられえ～

4月～6月のセンターで見られる自然を見つけに行こう！



ハッチョウトンボ



アオバセセリ



オオムラサキ



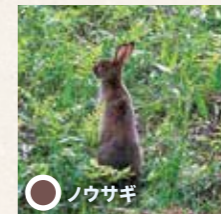
ホソミオツネトンボ



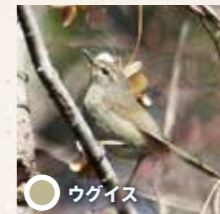
カキツバタ



ショウジョウバカマ



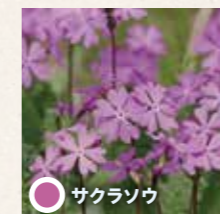
ノウサギ



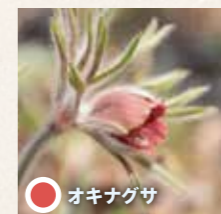
ウグイス



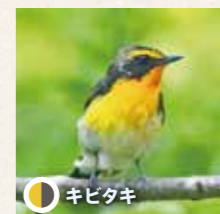
ナツツバキ



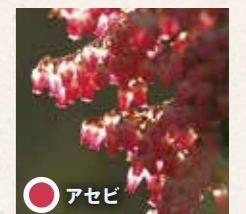
サクラソウ



オキナグサ



キビタキ



アセビ

イベントレポート

企画展「森の指人形モックンを作ろう」を開催しました！

2022年11月、森に住む妖精モックンの生みの親であるロンプ・アートツリーさんに来ていただき、みんなでモックンを作りました。まずは、センターでドングリや木の実、紅葉した落ち葉などを拾います。そして、ロンプ・アートツリーさんに教わりながら、モックンを作っていきます。刀をつけた武士のモックン、フラダンスのモックちゃん…本当にみんなの発想に脱帽でした。作ったモックンは「モックンの森」に飾りました。



▲モックン達がプランコやすべり台、池で楽しそうにお話したり、遊んだりしています。

▶ その他イベント情報はWEBをチェック！

岡山県自然保護センター

☎0869-88-1190 〒709-0524 和気郡和気町田賀730
休所日/毎週火曜日及び祝日の翌日、年末年始
開所時間/9:00~16:30 入場料/無料

岡山県自然保護センター

<https://okayama-shizenhogo-c.jp/>



に環境学習の機会を提供してきました。昨年から瀬戸内市や岡山市など自治体と連携したSDGsや生物多様性の取り組みも始まり、今後さらに取り組みの輪を拡げていきたいと思います。

また、事業者としては、政府の宣言直後からカーボンニュートラルの検討を開始し、ロードマップを策定しました。来年度は、燃料として用いている灯油をBDFに変える、太陽光発電設備を設置するなどエネルギーの転換に向けた準備を行っていく予定です。

声を上げる若者に、
真剣に耳を傾ける社会に

種の活動を行っています。岡山の特長ともいえる産官学金言民の横断組織である岡山地域発展協議体と連携して「岡山SDGsアワード」を創設し、さまざまな団体のSDGs活動の顕彰を行っています。毎回多くの団体から応募をいただいていた活動発表および参加団体の交流を行っています。

人材育成の面では、「BeLive」という高校生のSDGs活動の発表会を支援しています。探求学習というプログラムの導入により、SDGsという枠組みを越えた社会学習へのニーズが高くなっています。経済界としても、高校生の皆さんに地元の企業のことをもっと知ってもらえる良い機会と捉えています。先日、発表審査会を実施しましたが、企業や団体とコラボしている学校もあり、テーマ設定や研究内容も素晴らしいものでした。同時に高校生同士、また先生方も他校や企業との情報交換の場になっています。

未来に向けた人づくりで 若者の高い環境意識を しっかり育てたい



アスエコ未来教室では、中学生が毎回さまざまな業種のゲストからお話を聞き、話し合い、考え、互いに成長を深めながら発表する。

江守・岡山で様々な活動が行われているということがよく分かりました。しかし、問題の大きさ、緊急性を踏まえると、従来の普及啓発だけでは間に合わないと感じます。もっと大胆に新しい声を出せるような提案をする、今のしくみに対して声を上げるといった若者がもっと出てこないといけないと感じています。そのため、学生の頃から社会課題を見つけて行動を起こし、それで新しいしくみが作れたなど、そういう成功体験を促すような教育が、これらの人づくりで必要な観点ではないかと思えます。

坂井・廃棄物処理処分事業は、岡山県のインフラを支える重要な事業であり、事業基盤を確立して、人づくり、しくみづくりに取り組んでいきたいと思います。

事業団では、この7年間で30名の職員を採用しました。そのうち12名は転職者であり、全員が「環境のために何かをしたい」という使命感が動機となっていました。若者の環境に対する危機意識が育ってきているということは間違いないと思います。

また、中学生を対象に3年前から「未来教室」を開催し、環境問題を考える、将来SDGsの推進に貢献できる人材を育成しており、こうしたしくみづくりを通して、人材を育んでいきたいと思います。

藤木・企業にとつてのSDGsとしては、地球環境やエネルギー、新たな技術開発などありますが、働き方やエンゲージメントなど、取り組むべきテーマは必ずあるな、という感じがしております。会員アンケートの結果を見ても、SDGsを自分事として捉え、何かしら実行している方が格段に増えています。若い人たちが、意識はさらに高いと思われます。「若者の声を企業側がどれだけ取り入れられるのか」「彼らの関心を薄れさせることなく育んでいけるのか」が期待されることだと思います。

江守・お話を伺って、岡山県は本当によい雰囲気、前向きに取り組まれているなと感じました。産業界を進展させながら脱炭素を図ることは難しさもありますが、これまで取り組んでこられたように前向きに、さらに深掘りして挑んでいただきたいと思います。

SDGs推進に向けた

2023年1月30日 能楽堂ホールtenjin9

鼎談

人づくり・しくみづくり



一般社団法人岡山経済同友会
SDGs研究・推進会議座長

藤木 茂彦 Fujiki Shigehiko

東京大学未来ビジョン研究センター 教授
国立環境研究所 上級首席研究員

江守 正多 Emori Seita

公益財団法人
岡山県環境保全事業団 理事長

坂井 俊英 Sakai Toshihide

社会の大変革時代を乗り越えるための、 人づくりとしくみづくりを考える

さらなる温暖化を食い止める
ために、みんなで意識と
エネルギーの大転換を

江守・私自身は元々自然科学者で、気候変動の将来予測に長年取り組んでおります。

大前提として、まず温暖化が人間活動によって進んでいることは科学的に疑いの余地がありません。2015年のパリ協定(※)では今世紀中の気温上昇を2℃、できれば1.5℃で抑えようという長期目標で合意していますが、今すでに1.1℃上昇しています。

日本政府が掲げている2050年までにカーボンニュートラル達成というような、各国の長期目標を全て達成できたとしても2℃の上昇の見込みで、我々はまさに分岐点に立たされています。

温暖化が進むと海面の上昇によって沿岸の低い土地や小さな島国が大きくなり、さらされる他、さまざまな生きものへのダメージ、大雨や台風など気象災害の激甚化、疫病や干ばつによる食糧危機の懸念などといった被害が予想されます。

一つ大事なことは深刻な被害を受けるのが、CO₂をあまり排出しない発展途上国の人々や未だの子どもたちという点です。

日本では環境によいことという

「出さないのが当たり前」という意識を「出さなければ当たり前に、そんな社会とエネルギーの大転換がこの30年で起きなくてはなりません。一人ひとりが変化を望み、それを後押しするアクションを起こすことが求められていると思います。今日は地域でどのような課題と向き合われているか、色々と学ばせていただくこうと思っています。

坂井・私も岡山県環境保全事業団は1974年に設立され、来年50周年を迎えます。循環型社会、地球環境保全、生活環境、自然共生という4分野で事業を行っています。最大の事業基盤が廃棄物の処理処分事業です。水島にある処分場は西日本豪雨の際に発生し



た災害廃棄物の仮置きに活用されるなど、社会インフラの役割も果たしてきました。

また、皆様の家庭から出たごみを焼却することで発生する燃え殻、ばいじんなどを無害化し、路盤材等にリサイクルする施設として現在「みずしま資源再生センター」を建設しています。県内に同様の施設はなく、廃棄物の運搬に伴うCO₂も削減できると考えています。

SDGs、脱炭素の推進では、地球温暖化防止活動推進員70名、1万5千人強のアースキーパーを中心に普及啓発を行っている他、環境学習センター「アスエコ」が実施する環境学習出前講座では、年間2万人、これまでの15年間で20万人以上

※パリ協定…2020年以降の気候変動問題に関する新たな国際枠組み



わたしたちのSDGsアクション！

岡山県環境保全事業団とSDGsの関わりをより具体的に知って頂くために、SDGsターゲット※1での取り組みをご紹介します

※1 2030年に向けた17のゴールを達成するために、より具体的に示された169の目標。



インタビュー
岡山県自然保護センター
所長
なかたにはちろう
中谷 八郎さん

お話を伺ったのは

岡山県自然保護センター 主任
ふじた たくや
藤田 拓矢さん

担当業務: 企画、広報、フィールド整備、ガイド、ボランティア育成等
趣味: 星空観測、DIY

近況

業158年の古民家に引っ越し、里山ライフを模索中

里山の環境を維持することが次の世代へ豊かな自然を伝える、持続可能な地域づくりにつながっていきます

岡山県自然保護センターの取り組み

15 陸の豊かさも守ろう

TARGET 15・4

15.4 めぐみゆたかな山の生態系を守ろう

ENSURE CONSERVATION OF MOUNTAIN ECOSYSTEMS

どんなSDGs?

15.4 めぐみゆたかな山の生態系を守ろう

人の手を加えることで維持される多様性豊かな里山

中谷所長: 当センターでは「里山と自然」とをテーマに、豊かな自然環境を守り伝える使命がありますが、藤田さんは日々どのような想いで仕事をしていますか。

藤田: ニニには昔は誰にとっても身近な存在だった里山の自然が広がっています。私の業務は緑豊かな山の木々、麓に広がる田畑など、人と自然が共存できる空間を守るための整備や里山の大切さをより多くの方に伝えるために企画展示や体験型イベントなどを開催しています。自分が子どもの頃楽しかったことを思い出し、恒例のイベントでも少しずつ内容を変えながら、必ず



環境調査部の取り組み

15 陸の豊かさも守ろう

TARGET 15・5

15.5 多様な生物とその住処を保護し、絶滅の危機から救おう

PROTECT BIODIVERSITY AND NATURAL HABITATS

どんなSDGs?

15.5 多様な生物とその住処を保護し、絶滅の危機から救おう

インタビュー
環境調査部 部長
おおつぼ たかひろ
大坪 尚広さん

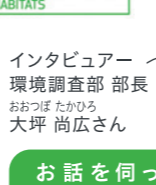
お話を伺ったのは

環境調査部 調査課
アセス係 技師
かがわ しゅんすけ
香川 駿介さん

担当業務: 生物調査、環境アセスメント
趣味: 釣り、カヌー

近況

最近、ダイエットのために懸垂バーを購入しましたが、すでに物干し竿と化しています。



大坪部長: 香川さんは入団以来環境調査部で6年経ちますが、仕事のやりがいを感じていますか。
香川: 私の業務は主に水生生物、鳥類の調査や水質調査で、他にプランクトンの同定業務などがあります。大学での専門がプランクトン研究でしたが、入団してからやりだしたことが圧倒的に多く、最近やっとな業務の全体像が見えてきたという感じですね。野生動物が相手の仕事なので、その生態に合わせて朝の3時頃から出勤したり、道なき山奥に分け入ったりと思っていたよりも



セトウチサンショウウオ、産卵場となる湿地の減少等によって数を減らしている。

ハードですが、苦勞して保全措置を行った動物がその後の調査で見つかったりすると、ほっとしてやりがいを感じます。
大坪: これまで行った中でどんな保全の例がありますか?
香川: 岡山県北での調査ではセトウチサンショウウオの産卵場が開発予定地にあることが分かり、代わりにビオトープを作ることを提案しました。すぐには産卵に戻ってきてくれませんが、水の流れを滞らせたり、枝を配したり光量を調節したりと工夫を続けて、4年後に産卵が分かったときには「無駄じゃなかった」と嬉しかったです。
大坪: この仕事は、SDGsとどのようにつながっていると考えますか。
香川: 基本的に私たちの仕事は開発予定地の前段階での調査、アセスメントです。保全上重要な動物を、ある程度目星をつけて調査するわけですが、実際に調査を行ってみると、自然の豊かな場所だけ

地域や行政とも連携し、積み重ねた成果を豊かな生態系を次世代に残す一助に

人間の生活の影響を受けて数を減らしていく生きものたち、調査は保全の第一歩

何か新しいことを取り入れるように心掛けていることから、準備はとても大変ですが、そのようなイベントほど「楽しかった」と言ってもらえるので張りがいがあります。
中谷: センターの基盤である里山を守り、伝えていくことが、SDGsとどのようにつながると考えますか。
藤田: センターに広がる自然豊かな里山の環境は、私たち人間と山の木々やそこにいる生きものたちが共存していることで維持されており、誰が欠けても目の前に広がる豊かな自然を維持することができなくなってしまう。私は、センターに広がる里山を守り、次の世代の子どもたちに里山の大切さを伝えていくことが重要であると考えています。そのため例えばセンターが行う展示では、目だけではなく、感覚や首の曲げなども使った体験できる工夫や、設備を整えるなどユニバーサル化にも心を配っています。また、利用者の年齢層も広がっていくと、未就学児向けには葉っぱの板面という落ち葉でお面を作るイベントや中高生には生きものへの興味や探究心の向上を図る連続講座「生物特別カリキュラム」を実施するなど、季節ごとにセンターの魅力も取り入れながら企画づくりを行っています。フィールド整備においても

でなく、一見身近な里山や工業地帯でもほほ何らかの絶滅危惧種が見つかります。その背景には、絶滅危惧種が年々増えていること、人の生活圏の近くに生息する生きものほど人の活動の影響を強く受け、減少している現実があります。人間の活動の影響を受けて数を減らしている彼らの存在を見落とさず、今ある自然環境を後世に残していくためにも、こうした調査活動が不可欠だと日々感じています。
行政と情報共有することで、住民を巻き込んだ保全活動につなげたい
大坪: 昨年の3月に当団は、生物多様性に関する協定(※3)を岡山市と結びましたが、これに関して生物多様性を守るといふSDGs目標にどう貢献できると考えますか。
香川: この協定は、私たちのような専門家が持つ技術や知識と自治体が行っている地域の野生生物情報を共有し、生物多様性保全に活用していくというものです。これまで私たちの仕事は依頼があった際にそのエリアを調査する、いわば点での活動でした。また、自治体も野生生物情報が不足している地域の調査等のために、専門家の技術が必要とありました。地元の行政と



未就学児にも自然を楽しめるイベントを、と企画した「葉っぱ板面」。子どもならではの傑作がたくさん生まれました。

私が担当している湿生植物園では、トキソウやサギソウ、ハツチヨウトンボなど多様な生物が生息しており、それらを楽しみにセンターを訪れる方もたくさんいることから、湿原の整備にも力を入れていきたいと考えています。
里山を守り伝えていくことが持続可能な地域を作る
中谷: 15.4: めぐみゆたかな山の生態系を守る。については、仕事を通じてどのように貢献できていますか。
藤田: 現在、私たちは自然の回復力を上回るスピードで自然環境を破壊し、環境に様々な変化を与えています。私たちが共に生きてきた里山は本来、山で木を切れば山が整備されて動物や鳥の集う豊かな森となり、田んぼで米作りをすることでカエルやトンボが集まる、自然にも人間にもとても良い環境です。センターでは、間伐した木を利用した炭焼き体験や、水辺の生きものと触れ合えるイベントも行っています。こうした体験を通じて、大人には里山の大切さを知ってもらい、子どもたちには



敷地の広大な自然保護センターの保全管理は、ボランティアの方々の手があつてこそ。

とにかくのびのびと楽しく遊んでもらうことで、大人にも子どもにとっても「こころ過した豊かな時間が将来的に「15.1: 森や野原、川や湖の生態系を保全し、回復させよう」や「15.4: めぐみゆたかな山の生態系を守る」につながっていくのではないのでしょうか。
中谷: 今後取り組むことや課題はなんですか。
藤田: 昨年は3万5千人を超える方に来場いただきましたが、更に多くの方に来てもらえるよう企画、運営を工夫していきたいと考えています。ここに来れば車も走らないし、思う存分大声を出して駆け回れます。普段はできないけれど自然の中で大冒険をするような子どもたちが増えてくれることが嬉しいです。また当センターに登録されている約100名のボランティアの方々のご協力があれば、センターの自然を維持することはできません。感謝の想いをいつも忘れず、今後もボランティアの皆さんと協力し、美しい里山の風景を守り伝えていきます。

環境保全事業団のホームページはこちらです
詳しくは下記QRコードからご覧ください



※2 ターゲットのアイコン解説は、SDGs169ターゲットアイコン日本版制作委員会作成のものを参考にしています

※3 「生物多様性保全の推進に関する連携協定」

「SDGsは楽しい」という気づきが 自分から動ける人材に



●「休日講座」は任意参加制ながら若い人から管理職世代まで幅広い行員が積極的に参加。この日は外部講師を招き、廃材で工作をするワークショップを開催。

「休日講座」は任意参加制ながら若い人から管理職世代まで幅広い行員が積極的に参加。この日は外部講師を招き、廃材で工作をするワークショップを開催。

SDGs 関連の取り組み事例は「海ごみプロジェクト」「赤磐産ぶどうのウエットティッシュ」「牡蠣殻再利用のボールペンなど、実に多様。いずれもお客さまの相談事から実現したものです。業種も多岐に渡るお客様の中には、どこかに解決の緒があるはず。知恵を絞り、お客様同志をつなげるハブとして機能していきたい。そうした想いで、コロナ禍で顧客の多くの

異分野の相互連携を
地域全体の脱炭素を支援する

昨春に始動した「地域脱炭素創生・岡山コンソーシアム」は環境省や岡山大学など産学官金の異分野が相互に連携し、地域全体での脱炭素を支援する組織です。環境省の「脱炭素ロードマップ」に基づき、脱炭素を成功に導くためのノウハウやリソースを「なぐ」ことが、ここでも主眼となっています。「例えばバイオマス発電所で

知られる真庭市は、他にも液肥や生ごみを利用した発電や、隈研吾さん設計の「グリーンナブル森山」が新たな観光資源となるなど、多方面にバランスの良い取り組みをされていますが、実際これらがうまく回っていくためには、基盤産業である林業の持続的な発展が欠かせません。地元全体を巻き込んだ行動を起こせるようサポートするのがコンソーシアムの役割だと、担当者は語ります。脱炭素を目指す自治体や企業に向け、省庁や企業からの支援を得るためのセミナーなども開催し、周知を図っています。

自分から取り組む人が集まって
持続可能な組織に

中国銀行ではESG関連融資や企業のSDGs宣言書制作サポートなどの利用も好調で、地元企業でも意識の高まりは想定以上という実感があります。環境と社会分野に関する投資目標として2030年までに1兆5千億円を掲げています。ESG融資は、これまでにない事業や新しい融資手法がありますが、積極的にチャレンジすることも、パートナーシップの精神で他行などとも連携しながら進めています。「こうした動きは銀行業務にも良い推進力になっていると担当者は感じています。SDGsの動きかけ



岡山で最も多くの企業のメインバンクである中国銀行。地域社会の持続可能な発展を目指すことが経営基盤の維持拡大につながるという観点から「地方創生、SDGsの取り組み強化」を中期経営計画の第一の柱に置き、積極的な取り組みを行っています。地方創生SDGs推進部を訪ね、2022年春に始動した「地域脱炭素創生岡山コンソーシアム」について

赤磐市と共同で、廃棄ぶどうや桃を加工したウエットティッシュは頒布品として広く活用されている。



は、楽しみながらできることや自身の関心が高いことからスタートするのがオススメ。その結果他の誰かも喜んでくれて、組織の活力になっています。新しい言葉が次々に出てきますが、一人の人としての行動が変わることが結局重要で、その積み重ねが自分で考えて動ける人材を育て、組織になっていくのはないでしょうか」

お話を伺ったのは

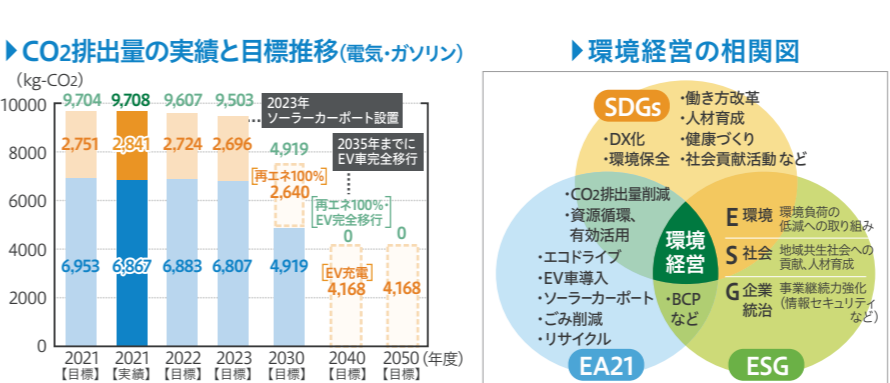
中国銀行 地方創生 SDGs 推進部

次長 武田 憲和 さん
調査役 京深 麻衣 さん
原 未有 さん
中山 奈都美 さん

株式会社 中国銀行
〒700-8628 岡山市北区丸の内1丁目15番20号
TEL.086-223-3111



●環境省中国四国地方環境事務所、岡山県、岡山大学、岡山経済同友会、岡山県商工会議所連合会、岡山県商工会連合会に岡山の主要な金融機関が参加している「地域脱炭素創生・岡山コンソーシアム」。



「保険業ならではの取り組みがあれば教えてください。」

代表的なのはDX化です。お客様がアプリでWeb証券を見られるようにし、申し込み書類もデジタル化。紙の消費が減らせ、2021年はCO2排出量を840kg削減できました。またオンライン面談も促進。移動のガソリンの使用量が抑えられ、お客様は相談や申請が手軽に。また、保険会社の通信機能付きドライブレコーダーを社用車に搭載。急発進・急ブレーキ

CO2や廃棄物などの削減目標を2030年まで設定されています。どのように長期目標を設定されていますか?

中小企業の長期的成長戦略には7〜8年かかると考え、SDGsのゴールと同じ年を節目にしました。バックキャストイングし、2021年度で65.2%のWeb証券率を87.4%にす

有限会社 藤岡保険コンサルタント

所在地 〒731-5106 広島県広島市佐伯区松2-12-10
従業員数 6名(2022年12月現在) 認証・登録日 2022年7月
総合保険代理店。損害保険・生命保険を取り扱っている。

【エコアクション21】環境省が策定したガイドラインに基づいて環境経営のためのしくみを構築・運用している事業者を認証・登録する制度です。

【エコアクション21 地域事務局岡山県環境保全事業団】
〒701-0212 岡山市南区内尾665-1 Tel.086-298-2122 Fax.086-298-2496
Mail ea21@kankyo.or.jp http://www.kankyo.or.jp
Facebook https://www.facebook.com/ecoaction21/

※1 DX...Digital Transformationの略語。デジタル技術駆使し経営や生活がより豊かになるよう変革を起こすこと
※2 ESG...環境(Environment)、社会(Society)、ガバナンス(Governance)の3つの要素を重視する経営方法
※3 BCP...事業継続力強化計画
※4 BCP認定...事業継続力強化計画を行う事業者を経済産業大臣が認定する制度

企業で取り組む環境経営 エコアクション 21 vol.30

2030年までの目標を掲げ EA21による環境経営の拡大で 持続可能な成長企業へ!

「エコアクション21以下EA21に取り組んだきっかけを教えてください。」

5年前、脳脊髄液減少症になりました。仕事ができない時期に周囲の人や社会に支えられていると感じ、「私も会社もSDGsで助けられた、恩返ししたい」と考えるように。その後新型コロナウイルスの影響でお客様との接点を失い、中期的ビジョンが見えにくい状況となり、新たな成長戦略としてSDGsの思考を取り入れました。

環境経営は、保険業界においてどのような意義がありますか?

近年災害が激甚化し、保険請求が増加。保険業は気候変動に影響されると言えますが、環境経営はどんな業種も無関係でいられないと思います。また、EA21にも関わるBCP(※3)は、自然災害や感染症拡大などの際に生活の受け皿となる保険業に欠かせません。当社は災害・感染症対策の講習を受け、BCP認定(※4)企業となりました。社内では机上訓練や防災知識のレクチャーも進めています。このような取り組みは事業継続に不可欠と考えています。

これからEA21に取り組む企業にメッセージを。

経営者自らがEA21の目標を会社に課して取り組むことで、社内の意識が変わりチームワークを高める効果もあります。環境経営は社会貢献であり、成長にもつながるので、多様な業種にEA21が広まればと思います。